

## 1 学校部活動を取り巻く現状

- (1) 少子化の進展 : 15歳未満の人口において、2040年度時点で大幅な人口減少が予想される。
- (2) 部活動の実態 : 部員数の減少により、単独で活動できない部活動が多くある。
- (3) 教職員の時間外 : 部活動指導を要因とする長時間勤務や未経験の部活動を指導する負担感が見られる。
- (4) 意向調査の結果 : 関係者（児童生徒、中学校教員、保護者）からの地域クラブ化を求める意見が多くある。

## 2 方針

**令和10年度末を目途に平日も含めた部活動の完全廃止  
(地域クラブ化)**

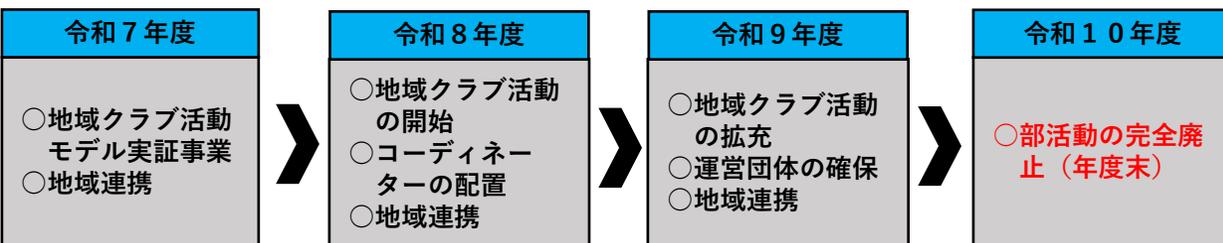
### ○目指す姿

- (1) 生徒にとって望ましい持続可能な活動の機会を確保
- (2) 学校の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上

### ○基本的な考え方

拠点校方式による学校部活動を実施しながら、種目単位で地域に展開していく。ただし、参加者のレベルに応じた活動ができるように、種目によって複数の活動団体が存在することも妨げない。

## 3 ロードマップ



## 3 具体的な取組

### ○地域クラブ活動のモデル実証事業

女子バレーボールの地域クラブ活動を実施する。課題の洗い出しや成果の検証を行い、関係者への情報共有を図る。（運営・指導体制、費用、活動場所等）

### ○指導者の確保と研修

人材バンクを活用し、登録者の確保に努めるとともに指導を望む教員が指導に従事することができるような体制を構築する。また、市独自の研修制度を構築する。

### ○運営団体の確保とコーディネーターの配置

運営団体を総合型地域スポーツクラブと想定し、積極的な連携を図る。

### ○費用負担の在り方

持続可能な活動を行う環境を構築するため、地域クラブ活動に係る費用は受益者負担を原則とするが、国や県の動向に基づき、市独自の支援策を検討する。

### ○活動場所

学校施設の利用を基本とし、施設利用に係る費用は減免とする。

## 4 地域クラブ活動のイメージ図

